

0. 報告日 ：2012年 8月 18日（金）		
1. 参加期間と場所 ：2012年7月30日（月）～8月4日（土）、大韓民国・釜山大学		
2. 申請者と所属チーム		
資料作成者	（所属、学年） 大分大学大学院工学研究科 建設工学専攻博士前期課程1年 （氏名） 松本 彩花	所属チーム （所属チーム名称） A3_JO4 （構成員氏名、大学、学年） Yasutaka MORISHITA、大分大学、M2 Ayaka MATSUMOTO、大分大学、M1 Teruhiro MISAKI、九州大学、M1
3. 感想と今後の抱負		
<p>このワークショップは、韓国、中国、日本の3カ国が集まって行うため、英語でコミュニケーションをとっていたのですが、交流やプレゼンテーションを通して英語力のなさを改めて痛感しました。授業や事前打ち合わせで英語のプレゼンテーションの練習を多少はしていましたが、ワークショップでは伝えたいことの50%程度しか表現することができませんでした。しかし、中国の学生は、英語の原稿を準備せずにプレゼンテーションを行っており、英語力とプレゼンテーション能力の差を感じました。また、韓国の学生もコミュニケーション能力が高く、英語力も日本の学生より遥かに高かったといえます。</p> <p>また、九州大学の学生とグループ設計ということでしたが、事前にCGで設計を行っていたので思ったより円滑に進めることができました。今後の課題としては、設計コンセプトをもう少し詰めて話し合うことができるよう誘導できる力を身につけなくてはならないと思いました。</p> <p>設計においても英語力においても課題が多く見まりましたが、得るものも多くありました。英語がうまくなくても、伝えようという気持ちがあれば、相手は理解しようとしてくれ、逆の場合もそうでした。うまく話せないという意識をすて、うまくなくても伝えようとする事で英語も上達するのではないかと感じました。英語に限らず失敗することを恐れずに取り組むことが何事も大事だとこのワークショップを通して感じました。また、戦争のことで様々な問題が生じますが、お互いに協力しあって一緒に発展していきたいという人が多いということを知ることができ、価値観が大きく変わるワークショップでした。</p>		
4. 提案作品		
タイトル	Closed to...	概要
<p>今回の課題である東道西器を東道＝日本の精神（あるものを最大限利用すること）、西器＝フォリーとし、ミルキーバレーの景観の美しさを再確認することを目的とした。その方法として、利用者が多く見られる橋沿いにミルキーバレーにフォーカスできるような窓や森林に近づくことができるように階段を設けた。周辺に馴染ませるために木や川の流れを模写し、木の枝の形の屋根を設けた。</p>		

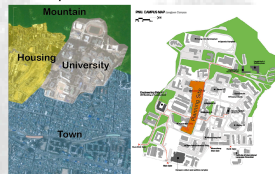
5. 提案作品のパネル



4-04 MORISHITA Yasuhiro, AKIYAMA YUKI, TSUMOTO Ryaku, MISAKI Teruhiro



01.Site Analysis



Pusan National University is in between Mt. Geumjeong(金井山) and commercial area and there are various people in the University. There are facilities which many people can use like Museum or Library around Mirnae Valley so various people pass there.

The origin of Mirnae Valley is Milky Way and Mirnae Valley held the beautiful nature and ecosystem.

But by expansion of University and using Valley's rocks, the characteristic has been changing.

Present, wooden road is maintained in one side of Mirnae Valley but we cannot see inside it from wooden walk. It is closed to University.

Mirnae Valley is divided by bridges so unity lacks.

02.Concept

Sense and Thinking

【Target】 Passers Mirnae Valley and People
 * Enable targets to sense beautiful scenery in Mirnae Valley from folly whichever they walk or stop
 * Reconsidering casual place like nature
 * Making identification of Mirnae Valley by folly

Thinking about 東道西器

東道 = Asian Spirit
 → Harmony with nature & Simple economy

西器 = Folly

→ Complementing Radical scenery & No function
 東道西器
 → Folly which is not too intervene nature and can sense identification with nature

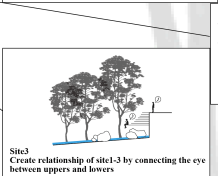
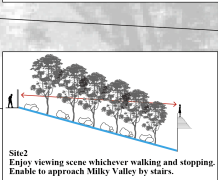
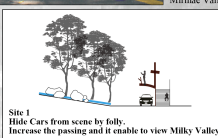
Dry garden style 枯山水 = Asian Spirit

It isn't a garden such as walking.
 It's composed to enable to be appreciated quietly from indoor.
 Facing up to Scenery
 SENSE SCENERY



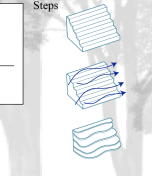
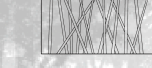
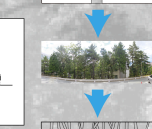
Dry garden style(枯山水) Ryouan-ji(龍安寺)

03.Diagram



04.Design Concept

Proposal of appearance of view
 Change a range of scenery by position, activity and quality.
 The folly describes trees and river in Valley.



05.Plan

